

---

# 令和6年度事業報告・収支決算 全体概要



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



# 1. 日本赤十字社長期ビジョン・中期事業計画

## 「日本赤十字社 長期ビジョン」

### 第一次中期事業計画 (令和2~4年度)

令和2年度  
計画

令和3年度  
計画

令和4年度  
計画

### 第二次中期事業計画 (令和5~7年度)

令和5年度  
計画

令和6年度  
計画

令和7年度  
計画

### 第三次中期事業計画 (令和8~10年度)

令和8年度  
計画

令和9年度  
計画

令和10年度  
計画

創立150周年

## 令和6年度の主な出来事

### 令和6年9月能登半島大雨災害



救護班による避難所等への巡回診療



避難者の健康状態を救急隊に引き継ぐ救護班

### 中東地域の人道危機



イスラエル・ガザ人道危機において、赤十字国際委員会が設置した野外病院で誕生した赤ちゃん



レバノン人道危機において、負傷者の搜索や救助に出動するレバノン赤十字社の救急隊

### ミャンマー地震



行方不明者の搜索・救助、負傷者の応急処置等を行うミャンマー赤十字社スタッフ



ミャンマー赤十字社が展開する巡回診療に帯同する日本赤十字社看護師(写真中央左)

## 2. 令和6年度の主な取り組み

### (1) 中期事業計画の横断的テーマに基づく主な取り組み

#### ① 赤十字グループの総合力を発揮した大規模災害への対応



- ・ 大規模地震対応計画の見直し
- ・ 新たな救護員育成体系に基づく救護員実践力の向上
- ・ 他団体との連携による赤十字防災セミナー・講習事業の推進
- ・ 地域医療継続に向けたBCP(事業継続計画)の見直し

#### ② 複合的な人道危機をもたらす気候変動に対する取り組みの強化



- ・ 気候変動への具体的な取り組み実施に向けた方針(アクションプラン)の策定
- ・ 赤十字病院等におけるCO2排出量削減の推進

### ③ 人口構造の変化に対応した持続可能な事業(経営)基盤の強化



- ・新たな会員、支援者等を拡大するための仕組みの構築
- ・運動基盤強化の取組み(赤十字ボランティア)と実践活動
- ・豊かな心を持った青少年の育成強化
- ・グループ経営を推進することによる赤十字病院の経営効率の強化

### ④ これまでの新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた新興感染症への対応



- ・新興感染症対策マニュアルの実効性の向上
- ・ICTの推進による救急法等講習事業等の実施体制の強化

## (2) 事業・部門別の優先課題に対する主な取り組み

### ① 救護・社会活動等



- ・国際赤十字・赤新月運動の優先的人道課題への対応
- ・災害や感染症等の脅威に対する地域社会づくりに向けての姉妹社の基盤強化支援(開発協力)
- ・連盟理事社としての国際赤十字・赤新月運動全体の強化

### ② 医療事業等



- ・各地域における地域医療構想に基づいた医療提供体制の整備
- ・赤十字病院グループ全体の医療の質の向上  
(医療安全の確保、医療DXの推進)
- ・広く社会に貢献できる専門性の高い看護師の養成

### ③ 血液事業



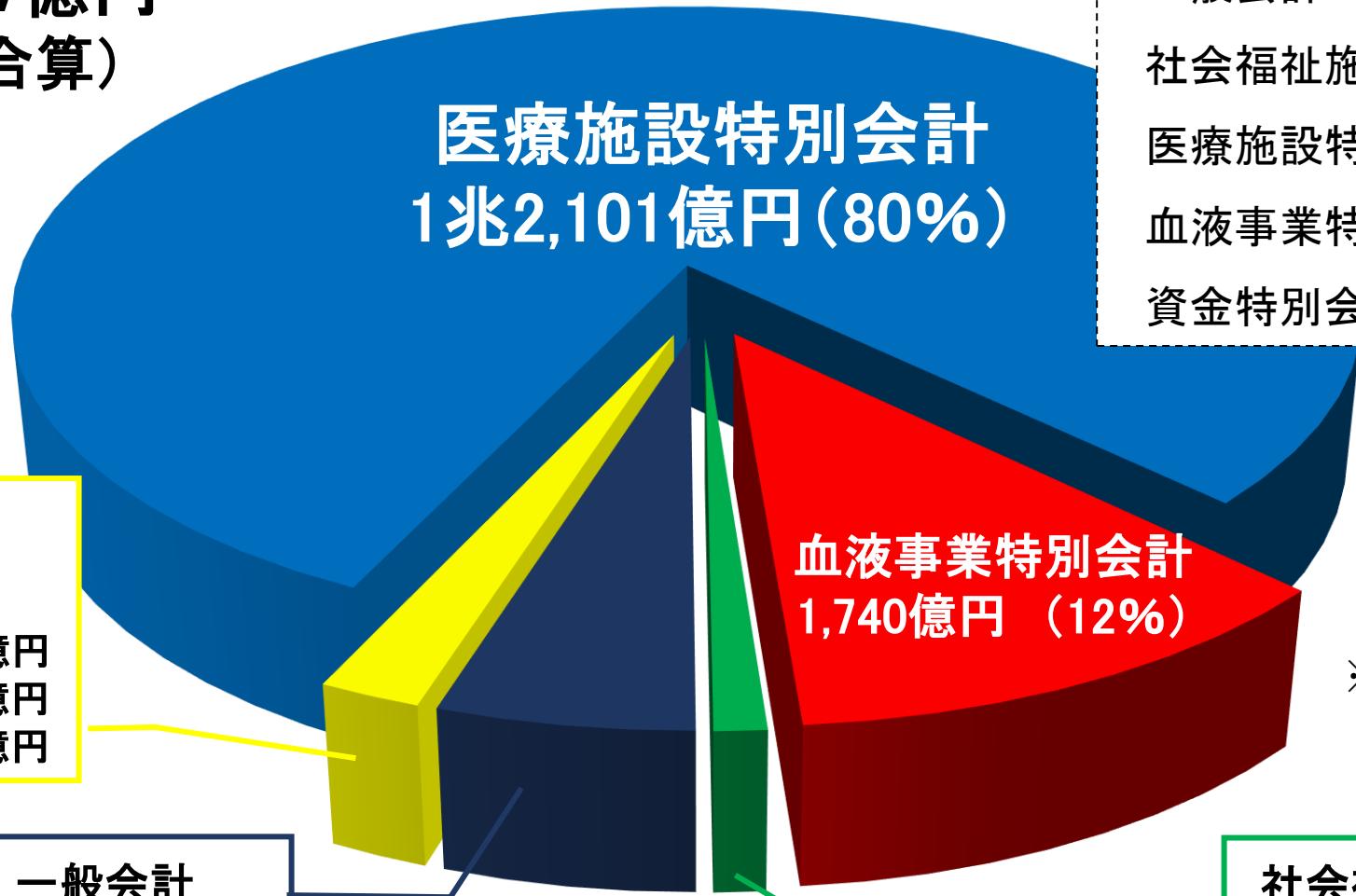
- 将来の献血基盤の構築に向けた若年層を中心とした各年齢層への献血推進
- 血液製剤の安全対策の実施  
(輸血後副作用の減少を図る安全な輸血用血液の供給)

### ④ コーポレート

- 日本赤十字社創立150周年プロジェクトの企画・立案
- 日赤への活動内容の認知・理解を促進し、興味・関心を持っていただくことに重点を置いた広報展開
- 全社的なリスク管理能力の向上
- 超少子高齢社会における安定的な事業運営に資する人材の確保

### 3. 令和6年度決算の概要(全体)

総額1兆5,067億円  
(歳出決算の合算)



(参考)令和5年度決算額 1兆5,563億円

一般会計:822億円  
社会福祉施設特別会計:147億円  
医療施設特別会計:1兆2,464億円  
血液事業特別会計:1,826億円  
資金特別会計:302億円

※ 端数処理の関係から総額と内訳額は一致しないこと。

一般会計  
763億円 (5%)

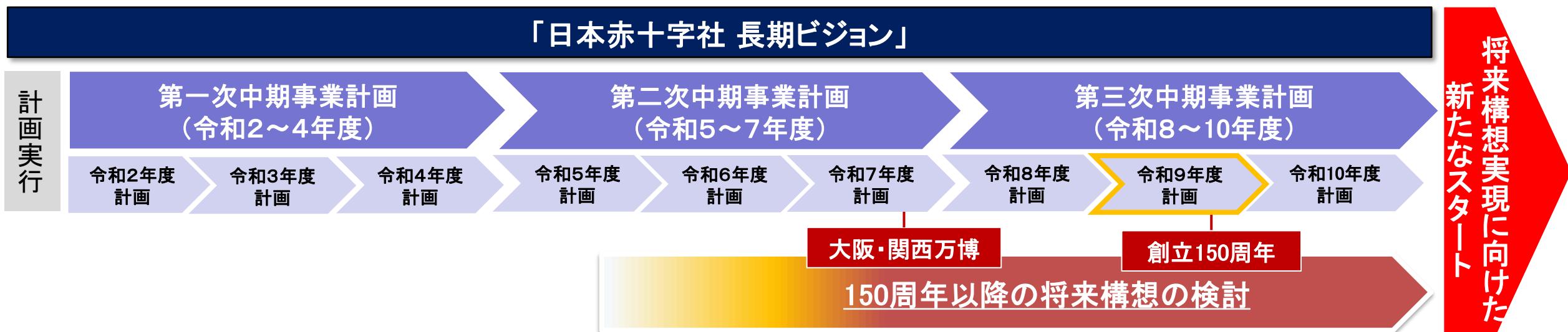
社会福祉施設特別会計  
157億円 (1%)

資金特別会計  
306億円 (2%)

- ・退職給与資金 301億円
- ・退職年金資金 3億円
- ・損害填補資金 2億円

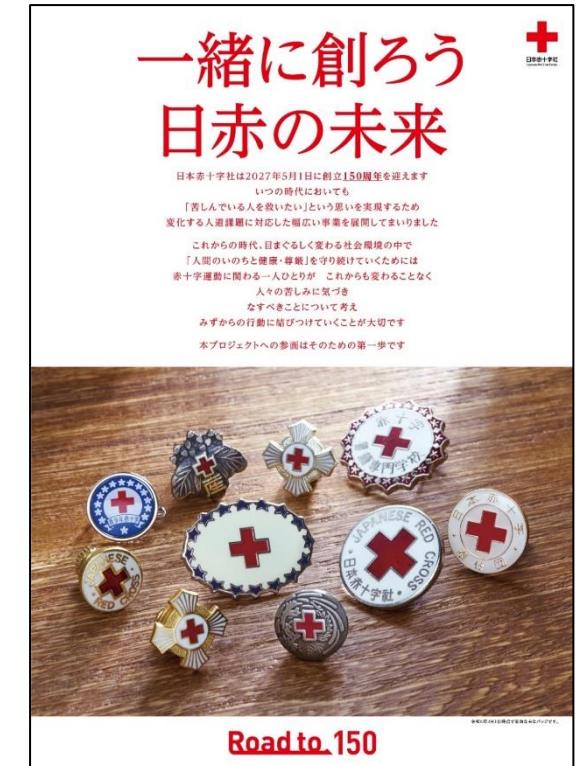
## 4. 日本赤十字社創立150周年とその後に向けて

- 令和6年度以降は、第二次中期事業計画の実施と併せ、その先の未来に向けた検討をプロジェクト（創立150周年プロジェクト）を立ち上げ本格的に開始した。
- 職員と赤十字に関係する様々な人々が、普遍的な赤十字の理念のもと、社会課題に対応した赤十字を自らが作り上げていく意識を持つことが重要であり、その第一歩目として大阪・関西万博への出展を位置づけている。



# ○創立150周年に目指すこと(日本赤十字社創立150周年プロジェクト)

- 赤十字の理念に共感、共鳴する人々と共に  
「新しい時代の赤十字」を作り上げる。
- そのため、まずはすべての職員がプロジェクトの  
目的・意義を理解し自分ゴト化する。
- 来し方を振り返り、赤十字の意味を再認識し、  
未来への展望を描く礎とする。



プロジェクトのスローガン

# ○創立150周年プロジェクトの構成

プロジェクトの構成	主な実施事項(案)
① 将来構想の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 創立200周年を見据えた「新しい赤十字」を目指す将来構想(ビジョン)の策定           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>社の将来の活動の方向性をすべての赤十字関係者の想いを結集し、ビジョンとして策定</b></li> </ul> </li> <li>○ 確実に来る2040年問題を含む当面の課題解決を目指す具体的な実行計画(プラン)の策定           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>ビジョン実現のため、人口減少等の環境変化を踏まえた当面の活動の方向性と 人的・財政的基盤の整備をはじめとした課題解決を含めた総合的な実行計画を策定</b></li> </ul> </li> </ul>
② 記念事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来創立150周年を振り返る参照点となり、広く世に共感を得られる事業を実施</li> </ul>
③ PR・イベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大阪・関西万博への出展</li> <li>○ 創立150周年記念赤十字大会の開催</li> <li>○ メディアを活用するなどした各種PR</li> </ul>